平成３０年８月２７日

あきる野市議会議長　子　籠　敏　人　殿

環境建設委員会
委員長　たばた　あずみ

行政視察事務調査報告書

このことについて、下記により行政事務調査を実施したので、会議規則第１１１条の規定により報告します。

記

１　実施日　　平成３０年７月５日（木）から７月６日（金）まで

２　視察先　　愛知県豊田市、愛知県岡崎市

３　調査事項　・生物多様性について　（愛知県豊田市）
「矢作川研究所　現地視察」
・岡崎ビジネスサポートセンターＯｋａ－Ｂｉｚ（オカビズ）について　（愛知県岡崎市）
「オカビズ　現地視察」

４　参加者　　たばたあずみ（委員長）、ひはら省吾（副委員長）、天野正昭
清水　晃、辻　よし子、増﨑俊宏、村野栄一

５　視察内容　別紙のとおり

（別　紙）

【視 察 日】	平成３０年７月５日（木）
【視察場所】	豊田市役所
【視察項目】	生物多様性について

【目　的】

平成２９年に生物多様性保全条例を制定した本市において、今後生物多様性の考え方を市民に広げ、環境保全を進めるため、先進的取り組みを行っている豊田市の事例を視察した。

【概　要】

豊田市は、９１８．３平方キロメートルの市域の７割に森林を有し、その中にラムサール条約湿地にも登録されている東海丘陵湧水湿地群を保全する、豊かな自然に恵まれた都市である。

同時に、自動車産業に代表されるものづくりの先進的な技術を集積しており、それらの技術を環境分野に生かすことも期待されている。

こうした背景のもと、平成２６年に行動目標を作成、市民・事業者・行政の役割を示した。また、「生物多様性ガイドブック」を作成、豊田市の豊かな自然と生物多様性とその保全の取り組みについて紹介している。

具体的な例では市民参加の生き物調査や個人・小学校を対象に講座の実施。なかでも東海丘陵湧水湿地群の中の矢並湿地では、モデル校４小学校が湿地の観察や保全などを学習し、矢並小学校の５・６年生が「子どもおもしろナビゲーター」として矢並湿地の一般公開で案内役を務めている。

また、事業者を対象とした学習会の機会を設け、市民団体と企業の社会活動を結びつける取り組みを始めている。

外来種対策としては、「拡大させない」ことを目的にし、環境美化の日(あきる野市における一斉清掃)にオオキンケイギクの防除活動を行っている。５年間行ってきた結果、オオキンケイギクの発見件数は横這いに保たれている。平成２８年からは環境省の「アカミミガメ対策推進プロジェクト」に参画し、生息状況の調査・アカミミガメの一斉防除・終生飼育の啓発を行ってきた。平成３０年度はアカミミガメ・イシガメの生息調査や防除マニュアル作成、報告会を行い、良好な河川環境をつくることをめざしている。

アカミミガメの防除については、矢作川研究所が中心になって活動し、市民にも協力を呼びかけている。

矢作川研究所は平成６年に豊田市矢作川環境整備計画を受けて第３セクターとして設立、現在は市直営組織として、矢作川を始めとする市域内の河川の調査研究、環境意識の啓発や自然と共生した川づくりの活動を行っている。

【感　　想】

東海丘陵湧水湿地群を有していることや矢作川研究所が川づくりの提言を行っていたことなどから、環境基本計画を策定する以前から小学校や市民レベルでの自然環境に関わる活動が行われていたことが背景にあり、すでに今後行っていくべき生物多様性保全の道筋ができていた上での取り組みになっている。

平成２７年に豊田市が出した「生物多様性ガイドブック」は、かわいらしいイラストでこどもからおとなまで誰が読んでもわかりやすい言葉をつかって生物多様性について説明している。とかく難しくなりがちな行政の説明から突き抜けており、見習いたい点である。

湿地保全に関わり、こどものうちから身近な自然にふれ、自分たちが守っていかなくてはならないという思いを醸成していること、さらにこどもたちを通して一般の市民も湿地についての知識を得るという入り口は、生物多様性保全を堅苦しくなりがちな行政の仕事としてではなく、市民レベルで気軽に取り組めるものへと間口を広げることになっている。あきる野市では森の子コレンジャーがそれに類する活動をしているが、あくまでも少人数のため入り口が限られてしまう。学校教育の中で、あきる野の自然を守り育てることをこどもたちが実感できるようなプログラムが組めたらすばらしいだろう。

好条件のもとで生物多様性保全に取り組んでいるとも思えたが、そうした状況下でもオオキンケイギクの防除活動には十分な周知と繰り返しの勧告が欠かせなかったとのことで、外来種防除活動の困難さを痛感した。それでも５年間増殖を防いできたと

の報告には見るべきものがあり、粘り強い取り組みが必ず実を結ぶことを示している。

　アカミミガメの防除は環境省のプロジェクトの一環として始まったばかりだが、河川を抱える自治体として水辺環境の保全に取り組む上で注目したい。目視での調査の手法のひとつとして、ドローンが使用されていた点も興味深い。

　豊田市の取り組み全般において、市民を取り込んださまざまな企画が打ち出されており、生物多様性を市民一人ひとりに自分のこととして捉えてもらうというねらいが生きている。市民との協働を掲げるあきる野市でも、活かしたい手法であると感じた。